



平成21年5月1日

各 位

会 社 名 サンフロンティア不動産株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 堀口智顕
(コード番号: 8934 東証第一部)
問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 齋藤清一
T E L : 0 3 - 5 5 2 1 - 1 5 5 1

平成21年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成21年1月29日に公表いたしました平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成21年3月期通期連結業績予想の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益又は 営業損失(△)	経常利益又は 経常損失(△)	当期純利益又は 当期純損失(△)
前回予想(A)	31,400	△12,600	△13,400	△12,500
今回修正(B)	26,870	△17,090	△17,794	△17,666
増減額(B-A)	△4,530	△4,490	△4,394	△5,166
増 減 率	△14.4%	—%	—%	—%
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	48,150	6,960	6,346	3,650

2. 修正の理由

世界的な金融危機の影響により急速に悪化した不動産市況は1～3月期においても低調に推移し、不動産価格の下落が続きました。そのような中、当社では1月に見直いたしました販売計画にもとづき、リブランニング事業に係る在庫物件の売却を進めてまいりました。しかしながら、この間の市況は想定以上に厳しく、そのため販売価格は前回予想時に計画した価格を下回る水準となりましたが、当社では有利子負債の圧縮と手元流動性向上を図るべく物件の売却を進めました。その結果、この間の売却件数は8件、売上高で約62億円(通期合計では30件、約239億円)となり、期末時点の保有物件数(棚卸資産)は11物件まで減少いたしました。また、売却を進める一方で、当初販売を予定していた物件でもキャッシュ・フローの観点から保有が適当であると判断した物件については売却を見合わせるなど、慎重に検討し選別してまいりました。これらの物件も含め、今般、棚卸資産評価損として約30億円を売上原価に追加計上(その結果、期末在庫11物件の評価損の通期累計額は約95億円)いたしました。なお、自己資本比率は29%程度になる見込です。

以上の見通しを踏まえ、平成21年3月期の通期連結業績予想を上記の通り修正するものであります。

詳細につきましては、平成21年5月14日に予定しております「平成21年3月期決算短信」にて公表いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上